發行所 京城 新報 社 京時開新原本門通 即耐人山下英州

なるものと云べきなり殊に韓人中には衛生 の状態に威化せしむるは韓國の開發上必要 一中諸般の事業に至るまで彼韓人をして吾國

品以工材品草

主、是

の何物たるを解するが如きもの極めて移る

し人身の健康を保護するは目下の急務なる

ス綿鹽糖巾料

無いた。 一年で、100万法を満井和太郎氏在韓中韓國郷 に對する供給の方法を満するは外景衛生上 五頭にして牛乳一日の販賣高二斗僚なり同 之る葉各地の都會に棟乳所を設置して繋用 がいる。100万法を満土の販売の工作で、100万法を満するは外景のでは、100万法を満土の販売を設置して繋用 ので、100万法を満井和太郎氏を禁止の頭数十一の機能は悪くや火を踏るよりも明かなり依 五日水田町市氏(大和町三丁目)牛乳餐業を「韓阪各地に向て發展するに於ては牛乳諸用 最も機体なるのは韓牛の改良春殖に最も必要なるものとす なられた。 の発達進歩するに至るべきは勿論吾邦人の の発達進歩するに至るべきは勿論吾邦人の は韓國の全選に醫師を派遣し陽事衛生の普 去る九月一日より開発したる京城博覧会は 及を企園せらるくと聞く果して然らは将本 ものとし今や博愛を主こせる吾國の同仁食 ●博覧會褒賞授與式

音京城に居留する吾邦人にして牛乳を飲用。窓を加へ遠江沿岸代葉池に牧場を設け小林でとして牛乳を飲用。窓を加へ遠江沿岸代葉池に牧場を設け小林でとして牛乳を飲用。窓を加へ遠江沿岸代葉池に牧場を設け小林でとして大名山なるが常日は韓國泉太子特に関する子がある。このは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、「このでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、「このでは、「このでは、「このでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」というでは、「このでは、」」 急よ 本 日午前九時疫賞授奥式を奉行する ・天日塩の成績 纸乾木牛畜米豆人 鹽 及 肥料 莢 豆麥之品具花

最に之を日本大魔省に送附せしが全国左記 本部の試験に係る朱安天日製職標本三種は 韓國政府財政顧問

夏草の繁生れもひやたきつらむ 人より細々と文ありければ

なみだぐまるし故郷の空

短夜のはかなき夢に古里の

はかなき人を見るぞはかなる

ふる里の友よりつ

に於て行

たる失敗を確留して居る、彼へスケングす

らもロンドン政府の眼中には精忌嫉妬の下

しやうとした。斯る精感的政策は層前時代一年乳は人世の要品にして飲食物中淡葉の効

検者を悉く放逐して新保護圏の政務を刷新

バリ政府は安南に於て多大の貢献、経大の

永久の開拓に從事したる僧侶や、智

を 大針 ***

青沼 寒洲

修上

あるを察し翌三十九年二月韓牛改良の目的

に年世の偉業を抛去つたのである。

一、九九、次三 元九、次三 元八、八八三 一七、八八三 二七、八八三 二七、八十二 二七、八十二 二七、八十二 二七、八十二 二七、八十二 二七、八十二 二七、八十二 孤見の泣く蘇閉けばそいろにも京城孤兒院の孤兒を見て

乙然うさ可

あるのは

言べる 泡沫のやがてを消ゆる身なればや流なく水も親しかるらむ

解軒

上平年の二倍以上に及へり マディー 一番では、 甲がんだらう豆腐屋でもつて忘中と書て

大学のでは、100mmのでは、100m 話があり、24 某は宮廷の探情をして居る「何れも鞠神の乳牛を購入し再び闌業すると、用者漸く増加するの質別にして探乳業は盆下や、朝鮮人の口から人格の高下を推問さ、有様となりしも牛疫は十一月下旬でより、 関係の日本の質別にして探乳業は盆下を、朝鮮人の口から人格の高下を推問さ、有様となりしも牛疫は十一月下旬でより、 関係の日本の傾消となるのみならず住て牛乳を下め、 明鮮人の口から人格の高下を推問さ、有様となりしも牛疫は十一月下旬でより、 原株乳薬に花焼粉乳を用たる者も生乳を飲料を構立が行った。 前代未開める観なら 域に於ける牛乳供給の途は一時上観えるの 者をして不使なからしむる有様となり養き質が、 でいること。 二千年本大日本常岡の海外登展の大機會にし多大の損害を被りたるを以て牛疫の恐る。我を飲用するに至りしは吾邦人の發展と共とか。妻は韓人を除謀を廻らして居るとか、となりたれども一度び斯の如う惨禍に遭遇しな盛况を呈するに至れり期の如く飲人の牛 なるとは営業者の歴程に接続して「に自然的な化せられたるものにして大に巻

哥

如し

●輸出入月報 (四十年十月分總稅移可廳獨查) (四十年十月分總稅移可廳獨查) (四十年十月分總稅移可廳獨查) (四十年十月分總稅移可廳獨查) (四十年十月分總稅移可廳獨查) (四十年十月分總稅各可經獨查) (四十年十月分總稅各可經獨查) (四十年十月分總稅本可經獨查) (四十年十月分總稅本可經獨查) (四十年十月分總稅本可經獨查) (四十年十月分總稅本可經獨查) (四十年十月分總稅本可經獨查) (四十年十月分總稅本可經獨查) (四十年十月分總稅本可經獨查) (四十年十月分總稅本可經獨查) (四十年1月12年至 (四十年 右之内輸出入の重なるものを暴ぐ 级金計 二、四四次、五公四四、七四、二七五 Ż 輸十部 三品、金0 れば左の三五、10二 五七、八九三 1三0、三四0 1三0、三四0 1三0、三四0 1三0、三四0 1三0、三四0 1三0、三四0 1三0、三四0 1三0、三四0

 表 絹 鯔白 シ 紡 生 鐵 島

 股 し

 及 反 反 金 木 チ 織 金 雑 材 人名

 動物 巾 綿 グ 糸 巾 料 名

れは左の如し

元七 圣·太 天八如何程もあり开昔は尤も無嫌べ云ふものが四十年 廿九年 平年 エ・今回は無常と云ふ……無業のた話しは四十年 廿九年 平年 エ・今回は明常と云ふ……無業のた話しは

無筆のた話しは

るのは

だり

親「何んでも知つて居やてがる何んだぶら

やア不可ないよ

| 第一號優等職(左表は百分率を示す) | 「この一名を知るべし 整選夾水 鑑選夾水 鑑選夾水 定化業 完成曹 並成曹 議達物分號積達物分號模達物分 壁の如きは特に優等なれば将來 倍 有望な

でなるのみならず其品質と等にして第一號でなるのみならず其品質と等にして第一號でなるのみならず其品質と等にして第一號である。

よりの名別古刀を研究すること顔る舞れりを交換せんが髯めに優みせしもの、其古へ

の如き分析成績の通知を得たり之によりて

九六、五七 時から人に さいふべし、殊に古來より惟人に珍賞され

職にも参考として一讀すべき價値あり(**後** 職にも参考として一讀すべき價値あり(**後** 其他業報にも有益にして趣味多き記事を載 するに記説機中ではの名の起版」「稲は何 と其名稱の起原」及「農業と家庭」こを掲げ ▲奥慶難誌(第六號) 社説には「稲の來歷」 第無" 栽培されたか」等の記事は素人 鋏

を了トしまれる――E、 確に一讀の價値あり(發行所東京市縣市區)子でも人 し正宗を万剣界の一疑問として説きし文は一成らねへを やて成らない利が喰ふから阿父さん流しる 子『那路の職へ選入ると趣に掛らなくつも報で表の伊勢屋の職へ入れてしまふぞ 7 職は代々無いちやア無いか

本丁創 廣く愛剣家の塔好を充たし、智識 なんだけれざも精神で是を見やうところの「朝鮮バック社」 然んな理風 ささなけれ 子「和郷より下がれば乞食だ夫で無け 親「何だか いが云ふにやア大概親が位には大 計り云やアがつて汝は職な者は つて云ふり 機挺な事を云ふなて親に向って ばみわやアしないコ 下がれば乞食だ夫で無けりや

事なり、 ▲朝鮮パック(第二號) 天長の住辰を配せ 踏建一讀讀者をして頤を解かし、時を寄せうが無い んためか表装の華麗に出來上れるは誠に見 新 刊紹介

の所に資網及、廣、告、申、込方を依頼致、資業を含せ、概者の便利を関り、左記録者を優生を観者の便利を関り、左記録者を受け、一般勝

の其邊は御京察被下度校に前以て社告 あ其邊は御京察被下度校に前以て社告 「大きな」という。 「大きな」というな。 「なな」というな。 「なな。 「なな、 「ななる。 「なる。 「ななる。 「なな。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「なな。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「なる。 「ななる。 「ななる。 「ななる。 「なな。 「ななる。 「なな。 「ななる。 「なな。 「なな。

心まで染む質はしのものならば

内容亦材料に富み者眼鏡く、諷刺五尺の味體だせそれが一寸の目に道久りや 親があるか 子然んな事を云つたつで阿父さん人間は 云つて居やすがる汝の目は官員と……學校に往つてから生意者

親の知られる 子だつて知れなたつたんだもの 大きなものが知れねへと云ふ奴 事があるか

第二號砲 式客内の東大脈庁左の加し、第一號砲 式場へ参集 事務實民長商業會議所會頭等約千五百名に

> 整はず、從て膝讀者諸君に對しても、 本紙發刊早々の際とて来だ萬般の設備

達の不馴よりつひ粗漏を來し配達後の 個所等有之哉も難 計 候が、遺は追々

野晒の大和撫子色深み

さまんへの人に変る者は自ら飛めよ

れりときして、母父上の元に置きし

母上へ終らせ待る 我子の愛らしくな 場せらるゝ由なり案内状は己に数日前より

在京日韓高等官各府縣知事各遺観察使郡守

笑いなア、アン分つた豆腐屋

-307-





